

| | |
|---------------------|--|
| <p>タイトル</p> | <p>2023 年度 共同教育学部国語専攻「学校推薦型選抜」</p> |
| <p>評価の ポイント</p> | <p>【小論文】</p> <p>筆者の見解に対して、自分の考えを具体的に述べることを求めた。課題の理解力・論理的な思考力・文章表現力などに加え、「日本語の文章の表現を豊かにする工夫」についてどのような具体例を提示できるか、その柔軟な発想力も評価の対象とした。</p> <p>評価にあたっては、以下の点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の内容をよく理解し、設問意図に沿った解答ができているか。 ・問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。 ・解答の記述に当たって正しい論理の運びができているか。 ・解答の論旨が明快であるか。 ・適切な表現ができているか。誤字・脱字はないか。文章に乱れはないか。 ・制限字数を満たしているか。極端に短い答案になっていないか。 <p>大野晋『日本語練習帳』岩波新書・1999年、33—37頁</p> <p>【面接】</p> <p>『枕草子』のうち短い章段を音読させ、それに関する問題を話題として取り上げながら、質問に対する返答内容の的確さや表現の適切さ等を評価した。</p> <p>評価にあたっては、以下の二点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問をよく理解した上で返答しているか。 ・高等学校までの国語の知識を十分に備えているか。 <p>【小論文解答例】</p> <p>「ヤマトコトバは情趣的な表現の言葉は細かく発達させ」たが、「物事を客観的に見て細かく言い分けるには、どうしても漢語を使わなければならない」と筆者は述べている。なるほど「明白」「明確」「鮮明」「明晰」という語の指し示す内容を、ヤマトコトバで簡潔に言い表すことは難しいだろう。したがって文章を書く際に、相手に伝えたい内容を、より正確にわかりやすく相手に伝えるためには、漢語の使い方に習熟し、語彙を豊富にすることが必要となるというのも肯ける。</p> <p>しかしながら文章として書き表した場合、漢語を多用することによって、どうしても事務的・専門的で堅苦しく親しみにくい感じを、読む者に与えてしまう事実は否めない。その文章がどのような読み手を対象としているものか、どのような目的を有したものかなどによって、「表現を豊かにする工夫」も自ずから多様性を持って行くことと考えられる。</p> <p>たとえば親しい人同士がやり取りする私信などには、ヤマトコトバの柔らかな</p> |

語感がふさわしい場合もあろうし、広告や宣伝のように人の注目を集めることを目的とした文章の場合ならば、「エモい」・「バエる」などの俗語・流行語の類を、敢えて使用することも効果的であろう。時と場合によって、臨機応変の表現の工夫が必要だと考えている。(588字)